

ソーシャル PM 研究会「ソーシャルPMの集い」実施報告

ソーシャル PM 研究会はソーシャル PM の活動ケーパビリティの向上に資するため、過去に当研究会のワークショップに参加いただいた方を中心に、情報交換とナレッジ共有を目的とした「ソーシャル PM の集い」を開催しています。2019年度の第1回目を下記のとおり開催し、12名の方に参加いただきました。

開催日時：2019年01月27日（日） 15:00～17:30

会場：TIS 株式会社研修室

テーマ：オリンピック・パラリンピックの観点から見た東京の課題～レガシーとしての共生社会～

内容：

1. 東京オリンピック・パラリンピック大会準備に関わっているソーシャル PM 研究会メンバーから大会の準備状況とその課題についての共有

- ・ 「大会準備」とは、宿泊施設、競技施設の建設、ボランティア募集だけでなく、イスラム系、LGBT の人、障がい者など様々な人と共生できる多様性のある社会に向けての取り組みも「大会準備」である。
- ・ 障がい者を「弱い・保護されるべき人」としてではなく、自然と一緒に活動できる社会を目指すべきであり、そのための法整備も進んでいる。
- ・ 現在は競技会場、ホテル等の施設だけではなく、そこに行くまでの道や公共交通機関に車椅子への配慮が不足している。
- ・ 「自然に」というのは難しいが、バリアフリールームに関する法令改正、補助金制度、車椅子タクシーなど、改善に向けて動いている。

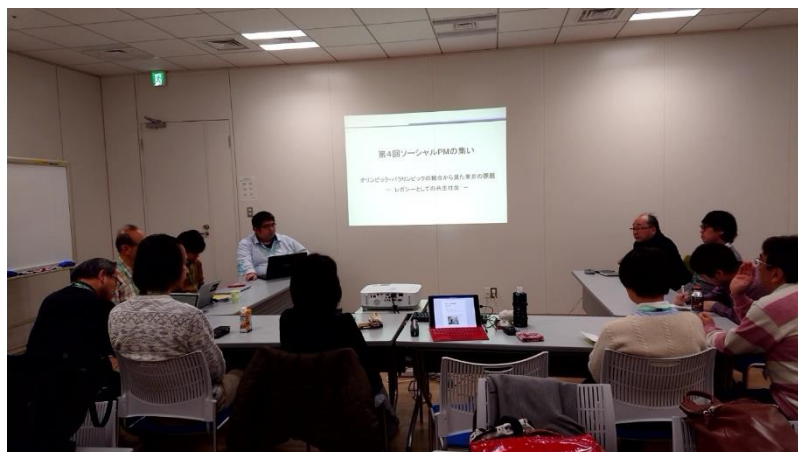
2. 普段の仕事や社会貢献活動の中で「障がいのある人との共生」について感じていること等のディスカッション

- ・ 精神障害など、見えない障がいに対する教育もとても大事である。
- ・ オリンピック・パラリンピックのボランティアは、障がいのある人も募集している。できることはいろいろある。
- ・ 障がい者に対応するのではなく、「困っている人」に対応できたらよい。
- ・ ストレスをなくすためには共感を示すことが大事。共感をもつためには、教育や、ガイドラインとその周知が大事。知ることができるイベントがあるとよい。
- ・ 大会終了後にどれだけのものを残せるかは、ハードではなくソフト（意識）の問題が大きい。

などの意見が参加者から出されました。

3. 今回のイベントに対する参加者のコメント

- ・ 改めて色々なことを考えさせられる有意義な時間だった。
- ・ オリンピック関連では他にもゴミ分別、ボランティアのエンゲージメント、CO₂ 排出量削減などのテーマで実施してもよいのではないか。
- ・ ソーシャル PM 研究会の研究やワークショップの内容が仕事や社会活動にどのように活かされているかを共有してほしい。



当日は日曜にも関わらず、多くの参加者の方々とダイバーシティ、共生社会に向けた課題について有益なディスカッションを行うことができました。今後も、このようなソーシャルな課題を議論する場として「ソーシャルPMの集い」を開催していきますので、よろしくお願いいたします。

ソーシャル PM 研究会
「ソーシャルPMの集い」PJ 担当